

DUによる重篤な先天性の奇形

原子力発電に必要な燃料棒（ウラン 235 が 3%）をウラン鉱石（ウラン 235 が 0.7%）から濃縮精製する過程でできる核廃棄物（ウラン 235 が 0.7%より少ないもの）が劣化ウランです。比重が大変重く（19g/cm³）、大変堅く、また、コンクリートや鉄などの固い物質に高速で衝突すると、貫通し、高温で激しく燃えます。原子力発電に伴う核廃棄物であることから値段がとても安く、1 kg で 10 円程（日本国内での鉄くず相場と同じくらい）です。重く、とても堅いので、貫通力があります。

戦車の装甲板を突き破る対戦車砲の弾丸に使われます。貫通後、高温で燃えますので、戦車の乗員は火傷と窒息で死んでしまいます。また、ミサイルの弾頭にも使われます。バンカーバスターが地中 30 m ほど（コンクリートなら 6 m）貫通してから（遅延）爆発させることができるのは、劣化ウランの堅さがタンゲステン並みだということからです。いずれの場合も、燃焼後の劣化ウランは微粒子となり大気に拡散していきます。

ウランをはじめとする放射性物質は放射能を常時一定の割合で放出し、より原子量の小さい物質に変化していきます。その放射能が分解されていく速度を計る目安となるものが半減期です。一定量の放射性原子核がはじめの数のちょうど半分になるまでに要する時間で、その物質に固有の値を持ちます。500 万分の 1 秒というものから 1000 兆年の 200 倍という天文学的数字のものまで様々です。劣化ウラン（ウラン 235）の自然界における半減期は 45 億年です。ちょうど地球の誕生から今日までの月日と同じです。

放射能は生命体の遺伝子を傷つけます。細胞の遺伝子が損傷を受けガンになります。精子や卵子の細胞が損傷を受け先天性の奇形となります。「Extreme birth deformities」はオランダの医学的なサイトで、湾岸戦争後に発生したイラク市民、および、米国兵士たちの、先天的奇形のある子供たちの症例を掲載しています。イラクは湾岸戦争後、国連決議による経済制裁を受け、医薬品でさえ（国連憲章違反）もその対象になりました。（制裁対象品の内容についてはアメリカが強く関与しています）アメリカ軍が湾岸戦争の時に使った劣化ウランの放射能の影響で、ガンや白血病で死ぬ人が 1.7 倍（2000 年）に急増しました。新生児の 3% が先天的な奇形児です。1.3% の子供が 5 歳までに死亡します。今回の米英の侵略戦争で米国政府は劣化ウランの使用を認めました。しかしながら、劣化ウランによる放射能の環境に与える悪影響はないとしています。

私は糾弾します。この軍事侵攻が侵略以外の何物でもなく、最も非人道的な手法（道具と思想）によっておこなわれたものであると。（笠井一朗-2003-4-13）

DUによる重篤な先天性の奇形

この地域では、胎児のDNAに重篤な影響を与える

"Unborn children of the region [are] being asked to pay the highest price, the integrity of their DNA."

武器管理研究センターのロス・ミルカリミ氏による報告書「イラク湾岸地域の環境および健康に与える影響」(1992-5)

- Ross B. Mirkarimi, The Arms Control Research Centre, from his report: 'The Environmental and Human Health Impacts of the Gulf Region with Special Reference to Iraq.' May 1992

最近になって私は、イラクでの影響であろうところの、おぞましいほどの先天性奇形の写真を数多く受け取った。正直言って私は、このような症例をいまだかつて見たことがない。私はあなたに、このページや写真をコピーして、出来るだけ多くの人に見てもらえるように、強くお願いしたい。

I have recently received large numbers of photographs of horrendous birth deformities that are being experienced in Iraq. I have not, quite frankly, ever seen anything like them. I urge you to copy this page / these pictures and circulate them as widely as possible.

米国が湾岸戦争の時にイラク軍に対する攻撃に際して使用した劣化ウランによる汚染を除去することは、イラクにとって必要不可欠なことである。しかしながら国連の制裁委員会は、米国の非人道的ともいえる強引な介入により、そうした汚染除去に必要な資材をイラクが輸入することをいっさい禁止している。約315トンの劣化ウラン金属がイラク地域で武器の材料として使われ、武器が対象物を破壊する際に粉塵となってばらまかれた。また、制裁委員会はガン治療に必要な医療用資材をも禁止している。制裁の対象となったものの中には、ほんの少量の同位性元素もある。ただ、放射性物質ということが理由なのである。

In an act of stark cruelty, the US dominated Sanctions Committee refuses to permit Iraq to import the clean-up equipment that they desperately need to decontaminate their country of the Depleted Uranium ammunition that the US fired at them. Approximately 315 tons of DU dust was left by the use of this ammunition. The Sanctions Committee also refuses to allow the mass importation of anti-cancer treatments, which contain trace amounts of radio-isotopes, on the grounds that these constitute '...nuclear materials..'

これからお見せする写真のほとんどは、ある人物からのものである。現時点ではその人物の名前を明かすことは出来ない。A4のカラー印刷されたもので受け取った。それをフォトショップを使ってスキャンし、出来る限り、画像がはっきり観察できるように仕上げてみた。その際、画像にいっさいの意図的な作為的な操作を加えていないことをここに申しあげておく。カラー印刷されたもの以外の、文書などは添付されていなかったのので、私なりのコメントを添えてみた。写真は1998年以降に撮影されたものであろうと思う。このような奇形について、医学的な解説や奇形の種類などをお教えいただければ大変ありがたいと思う。

The majority of the pictures were supplied to me by a source who prefers to remain anonymous at the current time. I was unable to acquire either original negatives, or prints from negatives. They arrived in the form of colour A4 copies. I scanned them into Photoshop and attempted to clean and sharpen them as best I could. There has **not**, and I repeat **not**, been any digital alteration other than the cleaning and sharpening process. No text documentation arrived with the pictures, so I have described them as accurately as I can. It is my understanding that the photographs were taken from 1998 onwards. I would be grateful to anyone who could potentially supply me with further information about these types of deformities; medical terms for them, etc.

もう一方の写真は International Yellow Cross の所長であるシーグバルト・ホルスト・ガンサー医師が撮影したものである。大方の写真は彼の1996年の著書「ウランプロジェクト - 著しく障害を受けた兵士、奇形の子供、死に逝く子供」で取り上げられたものである。本書は劣化ウランの後遺症の記録物で、写真は1993年から1995年に撮影されている。ガンサー医師は未公開の写真も付け加えてくれた。湾岸西部に従軍した米国兵士の子供たちの奇形の症例である。私は写真の著作権に絡む問題をガンサー医師にお願いし、自由に複写し配布して良い旨の了解を得ている。

Additional pictures were taken by Dr. Siegwart Horst-Gunther, President of the International Yellow Cross. Most appeared in his 1996 book "URANIUM PROJECTILES - SEVERELY MAIMED SOLDIERS, DEFORMED BABIES, DYING CHILDREN" (Published by AHRIMAN - Verlag, ISBN: 3-89484-805-7). The book is a documentary record of DU ammunition after-effects, and they were taken between 1993 and 1995. Dr. Gunther also supplied me with additional photographs from his unpublished collection, some of which feature the birth deformities being experienced

by Western Gulf war veterans' children. I have asked Dr. Gunther's permission for his pictures to be treated as 'Public Domain' and copyright free. He has agreed and you may reproduce them as you see fit.

ペンタゴンとイギリス国防省は劣化ウランによる危険は無いとし、そして米国が主導の多国籍軍による核関連施設に対する攻撃が原因ではないかとしている。しかしながら、ほとんどの研究者は奇形とガンの原因は劣化ウランによるものであると指摘している。特に劣化ウランが集中的に使われたイラク南部で顕著であるが、医学的症例が増えてゆくことで米英の主張を危ういものとしている。イラクの医師たちは、このような症例に今まで出くわしたことがなかった。また、日本での原爆投下後の状況（ガンと奇形の増加）が裏付けになるとしている。ガンの発症率は7～10倍に、奇形の発症率は4～6倍となった。

Both the Pentagon and the British Ministry of Defence officially deny that there is any significant danger from exposure to DU ammunition. And whilst it is conceivable that the US led attacks on Iraq's nuclear power stations could be a contributory factor, most researchers point to DU as the most likely source of both deformities and cancers. The rising number of cases in Iraq, particularly in the South where the greatest concentration of DU was fired, is simply staggering. Iraqi physicians have never encountered anything like it, and have made the perfectly reasonable point that similar increases in cancer and deformities were experienced in Japan after the two US atomic bomb attacks. Cancer has increased between 7 and 10 fold; deformities between 4 and 6 fold.

ペンタゴンの主張とは裏腹に、米国は、湾岸戦争の始まるもっと以前に、化学物質による毒性、ならびに劣化ウランがもたらす放射能が、一般市民と兵士たちに与える影響に十分に気づいていた。以下の米国軍事資料の抜粋を見ていただきたい。

Yet the US was well aware of the potential effects on civilians and military personnel of the chemical toxicity and radiological properties of DU ammunition long before the Gulf war began, as the following excerpts of a US Army document categorically state:

引用：兵士が戦場で劣化ウランの粉塵に曝された場合、放射能による影響と毒性による影響の双方に重大な問題になる可能性がある。戦闘中において、こうした劣化ウラン粉塵に曝されるのは、装甲貫通型の武器を使用した直後に戦場に乗り込んでゆく地上部隊の兵士たちである。戦闘時の劣化ウランによる被爆は、非戦闘時の作戦においては避けなくてははいけないだろうことを気に留めておいていただきたい。

・・・劣化ウランは・・・低いレベルのアルファ線を放射するが、これが体内に残留して被爆するならガンの要因になるし、化学的な毒性は腎臓に損傷を与えることになる。短時間でも被爆の程度が多いときは致命的であり、被爆量が少なくても長期にわたっているならガンになるだろう。劣化ウランを兵器に使うには、コントロールされた使用と優れた健康管理を実施することが前提となるが、戦場では劣化ウランはまき散らされることになり、我々の前提は満たされず、健康や環境に問題となる。戦場で適切な扱いができないことや、住民と兵士の長期にわたる健康に与えるリスクは、兵器に劣化ウランを使い続けることを受け入れ続ける可能性に大きな問題となるであろう。

Excerpts : "Aerosol DU (Depleted Uranium) exposures to soldiers on the battlefield could be significant with potential radiological and toxicological effects. [...] Under combat conditions, the most exposed individuals are probably ground troops that re-enter a battlefield following the exchange of armour-piercing munitions. [...] We are simply highlighting the potential for levels of DU exposure to military personnel during combat that would be unacceptable during peacetime operations. [...DU is...] a low level alpha radiation emitter which is linked to cancer when exposures are internal, [and] chemical toxicity causing kidney damage. [...] Short term effects of high doses can result in death, while long term effects of low doses have been linked to cancer. [...] Our conclusion regarding the health and environmental acceptability of DU penetrators assume both controlled use and the presence of excellent health physics management practices. Combat conditions will lead to the uncontrolled release of DU. [...] The conditions of the battlefield, and the long term health risks to natives and combat veterans may become issues in the acceptability of the continued use of DU kinetic penetrators for military applications."

以上は、国際科学技術会議の報告書「劣化ウラン弾の環境と健康に関する考察（1990年7月）」と米軍武器弾薬化学兵器司令部の報告書「劣化ウラン弾に関する長期戦略の研究（1990年1月）」の抜粋である。

- Excerpts from the July 1990 Science and Applications International Corporation report: 'Kinetic Energy Penetrator Environment and Health Considerations', as included in Appenix D - US Army Armaments, Munitions and Chemical Command report: 'Kinetic Energy Penetrator Long Term Strategy Study, July 1990'

米国は劣化ウラン汚染の長期にわたる危険性について周知していた。以下の文書をご覧ください。

The US was also well aware of the long-term dangers of DU contamination, and played it down, as the following memo and document make clear:

引用：劣化ウランの環境に与える影響について今まで問題にされてきたし、引き続き問題となる。よって、もし、戦場において劣化ウランが、皆がこぞって効果的でないとしたなら、政治的に受け入れがたいものになるだろうし、兵器の材料として使用されなくなるであろう。このように非常に微妙な問題が絡んでいるので、いかなる文書を提出する場合でも、十分な留意が必要である。

"There has been and continues to be a concern regarding the impact of DU on the environment. Therefore, if no-one makes a case for the effectiveness of DU on the battlefield, DU rounds may become politically unacceptable and thus be deleted from the arsenal. I believe we should keep this sensitive issue in mind when action reports are written."

Lt. Col. M.V. Ziehmによる、ロスアラモス国立研究所の文書(1991年3月1日)
- Lt. Col. M.V. Ziehm, Los Alamos National Laboratory memorandum, March 1st 1991

引用：兵士たちは戦場において劣化ウランの塵や煙に曝されることになる。が、軍医薬部最高責任者はこうした兵士たちが劣化ウランによる重大な体内被曝を被らないのではないかと結論づけた。医学的な調査・診断の結果、こうした兵士たちは劣化ウランの塵や煙に曝された結果であるということ結論づけるものではない、
・劣化ウランを使った兵器は世界中どこの軍事マーケットでも手に入れることが出来るものであるし、だから、こうした兵器は将来の紛争などでも使われるであろう。他の国が劣化ウランを用いた兵器を使い始めるであろうから、将来の戦場での劣化ウランによる患者の数は、急増するのではないか。・・・劣化ウランは低い放射能レベルの廃棄物であるから、許可された貯蔵施設に破棄しなければならない。・・・いかなる国際法、条約、規則、慣習法も、湾岸地域での米国の戦争に変更を強いるものとはならない。

"Soldiers may be incidentally exposed to DU from dust and smoke on the battlefield. The Army Surgeon General has determined that it is unlikely that these soldiers will receive a significant internal DU exposure. Medical follow-up is not warranted for soldiers who experience incidental exposure from dust or smoke. [...] Since DU weapons are openly available on the

world arms market, DU weapons will be used in future conflicts. The number of DU patients on future battlefields probably will be significantly higher because other countries will use systems containing DU. [...] DU is a low-level radioactive waste, and, therefore, must be disposed of in a licensed repository. [...] No international law, treaty, regulation, or custom requires the United States to remediate the Persian Gulf war battlefields."

米国軍環境政策研究所の「劣化ウランを米軍が使用した際の健康に与える短期および長期的影響（1995年1月）」の報告

- Report by the US Army Environmental Policy Institute: 'Health and Consequences of Depleted Uranium use in the US army', June 1995

劣化ウラン弾は今や12カ国以上の国が保有している。NATO軍がユーゴスラビアを空爆する際にも使われた。この地域に駐留している西側の軍は、最近になって、地域の水を飲んだり地元でとれた食べ物を食べたりしないように言われている。それでも英国のMoDは

「我々はいまだに（劣化ウランが危険であるといったことを）裏付ける、いかなる疫学上の確実な研究データにお目にかかったことがない。・・・軍事作戦から劣化ウランを用いた兵器を使わなくする計画はない。」

として、あらゆる危険性も否定し続けている。

引用元：ロンドンのホワイトホールにある国防省海外部のサイモン・レンから来た1999年5月20日と2000年3月22日の2通の私宛の手紙より

DU ammunition is now possessed by more than 12 countries, and was used during the NATO led bombing of the former Yugoslavia. Western forces stationed in the region have recently been advised not to drink the local water or eat locally produced food. Yet the British MoD continues to deny any potential risks, stating: "We have not seen any peer-reviewed epidemiological research data to support these claims [that DU is dangerous.] [...] There are no plans to remove DU-based ammunition from service." (Source: Two letters to me from Simon Wren, Overseas Secretariat, Ministry of Defence, Whitehall, London - 20th May 1999, and 22nd March 2000)

イラクを訪れた人が現地の助産婦から聞いた話ではあるが、彼女らは出産に立ち会うのはもはや喜びではないと。「何が生まれ出てくるのか、わからないのです。」と。

On a more personal level, I have heard stories of visitors to Iraq who spoke with mid-wives there. These mid-wives are purported to have said they no longer look forward to births as... "We don't know what's going to come out."

以下は、そんな彼女らが言うところの、訳の分からない物体の写真である。

The pictures below, which are **extremely** disturbing, show exactly what does.



頭部の著しい奇形：額の中央に
目らしきものがひとつある以外
はのっぺらぼう（写真1）

Child with almost total deformity
of the face; no recognisable
features at all, and what appears
to be one eye situated in the
middle of the forehead.



水頭症の子供（写真2） Child with hydrocephalus.



著しい水頭症：顔と身体と耳に奇形がある。写真右側に向かったのラインは双頭が形成していく過程と思われる。（写真3）

Extreme hydrocephalus; deformity of face, body and ear. The line running down the right hand side of the head would appear to show that potentially two heads were

forming.



耳と下肢の奇形（写真4）

Deformity of ear; possible deformation of lower body.



両目が形成されていない。写真では、やや透きとおったような肌に見える。近くでフラッシュをたいて撮影したためかも知れないが、うまく説明できない。

（写真5）

Born without eyes. I can offer no explanation as to the translucent quality of the skin other than it is possibly a result of flash photography at close range.



背中に大きな穴がある。二分脊椎 (Spina Bifida) の特異な形だと思われる。(写真6)

Huge hole in child's back, which is, I believe, an extreme form of Spina Bifida.



出産直後の写真であろう。雌雄の区別がつけられない。育たない子供 (Non-Viable Children) に散見される。(写真7)

Possibly taken shortly after birth, this picture appears to show ambiguous genitalia, sometimes referred to as 'Non-Viable Children'.



白い、見たこともない物質で覆われている。顔と目に奇形がある。近距離からのフラッシュ撮影で細部の写りが悪い。(写真8)

This child is completely covered in a white substance of unknown properties. Obvious deformation of face and eyes. Flash photography at close range obscures detail.



顔に似たような奇形がある。ガンサー医師によれば、'Zyklopie' であるとのこと。

Zyklopie の語源と思われる Zyklop はドイツ語で、ギリシャ神話に出てくるキュクロプス(人間を食う一つ目の巨人)

Zyklopie は医学用語としては単眼症(?) (写真9)

Two children with similar deformities of the face. Dr. Gunther refers to this condition as 'Zyklopie.'



白い、見たこともない物質で全身が覆われている。(写真10)

Child with unknown white substance covering almost the whole body.



上の写真と同じ子供。口と目に著しい奇形がある。ひび割れた表面の様子は切り傷が開いたようでもあるし、皮膚が形成されていないようでもある。(写真11)

Front view of same child. Severe deformities of mouth and eyes. The welts appear to indicate open wounds, or unformed skin tissue.



体形自体の奇形。頭が90度の角度で身体についている。(写真12)

Severe body deformity, with head formed at 90 degree angle to upper torso.



重篤な水頭症：この子も双頭が形成されつつあったかのようなのである。(写真13)

Severe hydrocephalus; again, almost as though two heads were being formed.



近距離からのフラッシュ撮影で細部の写りが悪い。口の奇形と、目がひとつ無い。眼窩に奇形がある。(写真14)

Flash at close range obscures detail, but this appears to show malformation of the mouth and one eye missing, with the eye socket deformed.



黒っぽく沈んだ雰囲気肌のしている。なんだかよく分からない。(写真15)

It isn't clear what has happened to this child, and I have no explanation for the dark nature and condition of the skin.



ピンボケ写真だが、目がないのがわかる。口にも奇形がある。(写真16)

Lack of focus obscures detail, but missing eyes are clearly visible, as is deformity of the mouth.



この子はやはり育たない子供 (Non-Viable Children) である。男の子だが、ペニスと陰嚢が合体している。(写真17)

This picture would appear to show another 'Non Viable' child, possible male, with penis and scrotum merged.



おぞましいほどの、頭部ならびに四肢の奇形である。目が無く、手足の奇形に注目されたい。(写真18)

Horrendous deformity of entire body and head. Note lack of eyes and malformation of the hands and feet.



口の奇形であるが、よくわからない。胎児期における腫瘍かもしれない。(写真19)

Child with unknown deformity of the mouth, possibly a large tumour grown during foetal stage.



手の奇形である。全指が癒着している。
(写真20)

Malformation of hands, with almost total merging of all digits.



顔の奇形。ガンサー医師によれば、
'Zyklopie' であるとのこと。(写真21)
Zyklopie の語源と思われる Zyklop
はドイツ語で、ギリシャ神話に出て
くるキュクロプス(人間を食う一つ
目の巨人)

Zyklopie は医学用語としては単眼症
(?) (写真9)

Severe malformation of face. Dr.
Gunther refers to this condition as
'Zyklopie.'



両腕の著しい奇形。湾岸戦争従軍米
国兵士の子供である。(写真22)
Severe deformity of arms. This
child was born to a US Gulf
veteran.



イラクの子供。著しい水頭症で、大
脳神経に欠陥がある。(写真23)
Iraqi child with extreme
hydrocephalus, and defects of
cerebral nerves.



ガンサー医師の診断で原因不明の腎臓病と診断されていたが、彼は劣化ウランの薬莖で遊んでいたようだ。

(写真24)

Child with previously unknown renal disease, first diagnosed in Iraq by Dr. Gunther. The speculation is that the child had played with DU ammunition casings.



イラクの子供。著しい水頭症で、大脳神経に欠陥がある。(写真25)

Iraqi child with extreme hydrocephalus, and defects of cerebral nerves.

出典：<http://www.web-light.nl/VISIE/extremedeformities.html>

参考：<http://homepage1.nifty.com/KASAI-CHAPPUIS/>